

2007年度
近畿YOC審判講習会
参加者報告書

-
- 【日時】 2007年8月7日（火）～8月8日（水）
【場所】 横大路体育館
【大会】 第45回近畿地区国立大学体育大会
【参加者】 （京都からの講習生）遠光 悠祐 ・ 野際 陽子

1. 報告者		遠光 悠祐		
2. 従事した試合				
	回戦	Aチーム	VS	Bチーム
	主審		副審	講師
①	女子1回戦	滋賀大学	VS	和歌山大学
	遠光		飛戸氏 (滋賀)	那須氏 (和歌山)
②	男子2回戦	兵庫教育大学	VS	京都教育大学
	遠光		幡丸氏 (和歌山)	細見氏 (兵庫)
③			VS	
6. 感想				
<p>今回、近畿 YOC に参加させて頂くことができ、大変光栄に思います。近畿ブロック大会を吹くための登竜門となるこの講習会で、自分自身のレベルを確かめるには良い機会でした。</p> <p>私はこの2日間の講習会を通じて、審判としての基本的事項がまだまだ定着していないことを痛感しました。1日目の試合ではレポーターング・四原則について、2日目では視野の取り方・プレイヤーへの対応についての講評がありました。</p>				
<p>1日目…①ファウルコール後の『run→report→run』が徹底されていないのでロスが少なからずあるということ。またプレイヤー番号のコールで手首が反り返って非常に見づらく、腕を伸ばして手のひらは目線ぐらいにしなければならない。このレポーターングが原因で TO トラブルになりうるケースがよくあると言われました。</p> <p>②『四原則』の中の『always moving』・『space watching』について、足を一歩動かすだけでスペースが見えやすくなる、体や目線の向きを変えるだけでもスペースが見えやすくなる。それにも関わらず早い段階でステイして判定してしまうことが多いので、特にショットやリバウンドに対する危機感が薄いとのことでした。</p>				
<p>2日目…①初日の講評とも関連して、自分自身がどこを見なければならないのかという点で、自分のエリアにドリブラーが向かっていても、目線がそこに無く非常に危険な場面がいくつかあったと指摘されました。私にはその覚えが無かったのでよりいっそう修正が必要な事項でした。</p> <p>②プレイヤーが何らかの事情で痛がっている場面での対応は適切であったか、フリースローにおいてリバウンドに入ろうとしているのかそうでないかを把握しているのか、私自身は場面に応じて対応していたつもりでしたが、外から見るとそう思えないことがあったとのことでした。</p>				
<p>講習会全体を通じて、審判としての役割・約束事を徹底すること、技術面・精神面を含めたバスケットボールに対しての理解が必要であることが改めて知らされました。</p> <p>最後になりましたが、本講習会でご指導いただきました講師の方々に厚くお礼申し上げます。また私を講習生として派遣して頂きました京都バスケットボール協会審判部の方々に心からお礼申し上げます。</p>				

1. 報告者	野際 陽子			
2. 従事した試合				
	回戦	Aチーム	VS	Bチーム
	主審		副審	講師
①	女子1回戦	大阪大	VS	奈良教育大
	辻本氏(兵庫)		野際	開氏(大阪)
②	2回戦	京都大	VS	奈良教育大
	野際		飛戸氏(滋賀)	那須氏(和歌山)
6. 感想	<p>今回、ずっと参加したいと思っていた、近畿YOCに参加できたことにとっても感謝しています。私課題はプレイと自分のより適した距離を感じることでした。</p> <p>1日目は兵庫県の辻本氏と審判をさせていただきました。せっかく近畿YOCの講習生として選んでいただいたのに、何よりも会場の環境が一番辛かったです。講師の開氏には、体調管理と経験のお話をさせていただきました。プレイと自分との距離は、数(経験)をこなさなければ身にはついていかないとご指導いただきました。さらに、経験で身につけるということは、ただ数をこなすのではなく毎回目標を決めて臨み、100パーセントの力を出すことであるとお話いただきました。他にも、ヴァイオレーションは、いつ成立するのかをもう少し考えることと、ファールの見極め(今回特にお話いただいたのは、“プッシング” “ブロック” “ハッキング”)についてもようにご指導いただきました。開氏は、何よりもチャレンジし続ける大切さを私たちに教えていただきました。</p> <p>2日目は滋賀県の飛戸氏と審判をしました。1日目と違い主審という立場で少し緊張しましたが、お互いが「近畿YOCの受講者」なので思い切ったのぞみました。“プレイを感じて動く”と自分の中でテーマを決めて、“見たい・このプレイは勝負が決まるところ”と感じる場所に動きました。講師の那須氏には、“ゲームの流れ”についてご指導いただきました。選手は何をしたいのかを感じ取る、感じ取るには選手の表情が見えるとよいとお話いただきました。また、ファールが起こる影響について、本当にファールが成立しているのかよくみるようにお話いただきました。私自身、「ファールをした瞬間に笛を鳴らさないと選手が納得いかない」と以前お話をいただいたことがあり、那須氏から頂いた反省とのバランスが感じ取れるようになれたらと思います。私の課題については、次のプレイを意識しながら動くのと良いと、ご指導いただき上達への一歩がみえたように思えます。</p> <p>2日間の講習を受けて、講師の方には丁寧にご指導いただき、とてもありがたく感じております。よい刺激をいただいたと感じております。同世代の審判が努力している姿を見ると自分自信頑張ろうという気持ちが出てきました。このように、よい刺激を受けることが出来たのもこの近畿YOC講習会があったからだと思います。その反面、“ルールブック”に書いてあることを他の講習生の反省も含めよく耳にしました。ファールの種類・トラヴェリング・ユニホームのこと等、私自身少し恥ずかしいことだと考えております。もっと、受講するにあたっての準備をしておくべきだと思いました。</p> <p>最後になりましたが、講師の方々には暑い中、私たち講習生のために場を設けて下さり、有難うございました。厚く御礼申し上げます。</p>			